



## 本校のPTA活動 ②

昨年の6月号において、同じタイトルで本校のPTA活動についてお知らせしました。今年もPTA活動の改善点や、学校としての方針をお伝えします。

PTA活動の目的は、「保護者と学校職員が協力して、生徒の幸福と健全な成長を図ること」です。そのためには、学校の教育活動について理解いただくことやPTA会員の親和が欠かせません。そうした活動を企画し、運営いただくのが20人のPTA執行委員の皆さんです。

昨年は、コロナ禍で休止していたPTA主催の高校見学会を復活し、2日間で4校の高校を見学しました。参加者には好評でしたが、参加人数がとても少なかったため、今年度の実施は見送ります。また、11月の土曜授業「キャリアスクール」では、運営にご協力いただき、講座の司会等を行っていただきました。

今年度は、PTA広報誌として発行していた「かやばの」の発行方法を見直します。長期間に渡る取材や編集等の負担を軽減するために、内容をコンパクトにしてWEB上で公開する方式にしました。第1号は、5月2日にスマート連絡帳で配信されています。また、先月行った授業参観「島中へ行こうウィーク」について、参観日を4日間と広く設定することを執行委員会で協議し、実施しました。

本校のPTA活動は、会員の皆様の負担軽減に努めつつ、必要な活動を精選して実施しています。執行委員会は年間8回とやや多いのですが、学校の方針等を説明するとともに、保護者目線で改善等のご意見をいただく大切な機会となっています。

生徒の幸福と健全な成長を図るために、引き続きPTA活動ならびに学校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

校長 辻 伸之

### あすなろ教室について

本校では、教室での生活になじめないお子さんが別室で学習する「あすなろ教室」を学校独自に設置しています。利用者の増加を見込み、今年度はその教室を2教室に増やしました。5月末現在、10人ほどのお子さんが利用しています。

文科省の発表では、全国の小中学校における不登校数は約24万人です。不登校の要因は、お子さんの性格や特性、人間関係のトラブル、学力不振、起立性調節障がい、愛着障がいなど様々です。不登校の悩み相談やあすなろ教室の見学などをご希望の方は、学級担任または小川教頭（不登校コーディネーター）にご連絡ください。電話でも、スマート連絡帳でも結構です。

## ○ 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行について

新型コロナウイルス感染症は、5月8日付で、感染症の予防及び患者に対する医療に関する法律上の5類感染症に移行しました。これによる教育委員会からの通達を受けて、学校の衛生管理マニュアルの改訂を行いました。主な内容は、次の通りです。

### ○ 学校生活における防止策について

- ・家庭との連携による生徒の健康状態の把握、適切な換気の確保、手洗い等の手指衛生や咳エチケットの指導は、引き続き行っていきます。
- ・学校教育活動でのマスクの着用は求めず、個人の判断に委ねます。また、給食時間の「黙食」は行いません。



### ○ 出席停止措置の取扱いについて

- ・新型コロナウイルス感染症への感染が確認された生徒に対する出席停止の期間は、「発症日を0日とし、その後5日を経過するまで（症状が継続している場合は期間を延長する）」と変更になりました。
- ・感染者との濃厚接触の疑いがある場合も、生徒本人に感染が確認されていない場合、出席停止の措置は行いません。
- ・生徒に発熱や咽頭痛、咳等の普段と異なる症状がある場合は、今まで同様に、自宅で休養するよう勧めていきます。

## ○ 6月の学校行事に向けた新たな取り組み方

5月30日（火）の1年生東濃研修を皮切りに、2，3年生の宿泊研修が始まります。また、中間テスト、地域のボランティア活動、中体連夏季大会と行事が予定されています。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、様々な行事が以前のように開催される兆しがありますが、島中学校では、「単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させる」ことを基本に、新しい学びの在り方へと進化を図っていきたく考えています。

東濃研修の準備を進める1年生では、研修を通して身につけたいことや約束などを、学年集会で、全員で話し合っ決めていました。先生や一部の生徒が決めたことのみで進めるのではなく、自分たちで決めて、自分たちで実践していく「自主性」を身につけることができる新たな取組を試みています。



## ○ ストレス緩和は、否定せず、話をよく聞き、受け止めること

新しい学校生活が始まり、色々な行事や取組が行われてくると、子どもたちは、一生懸命に取り組む一方で、知らず知らずの内にストレスをため込んでしまうことがあります。そんな時は、周りにいる大人が察知し、上手く対応していくことが大切です。「ストレスをため込んでいるな…」と感じたら、過敏に反応したり、深刻な表情をしたりせず、まずは話をよく聞き、不安や辛さをそのまま受け止めてください。傍にいて「心配だね」「気持ちが落ち着かないね」と声をかけてみてください。不安やストレスは無くすものではなく、減らすものです。逃れよう、忘れようとするほど、焦りや別のストレスを生み出すことになりかねません。徐々に薄めていく気持ちで対処していきましょう。